

附属農場公開講演会「今、有機農業、自然栽培を考える」を開催



12月17日（土）、春日井キャンパス・農学部附属農場において、附属農場公開講演会が行われました。本年度の講演テーマは、「今、有機農業、自然栽培を考える」。農業生産法人みどりの里で、自然栽培に取り組まれている野中慎吾様、本農学部生物環境科学科・環境土壌学研究室の礒井俊行先生のお2人による講演が行われました。冬至が近づきつつある当日は、曇天模様の中でしたが、55名の方々にご参加いただき、熱気のある講演となりました。

野中先生は、15年に及ぶ自然栽培のご経験を、栽培時の水やりのタイミングと量、温度管理の影響が植物に及ぼす作用を切り口に、栽培現場の写真を交えながらお話をされました。イチゴやハウレンソウ、ダイコン他、農作物が、無施肥、無農薬、不耕起で栽培される様子は、聴講された参加者の方々も驚かれたのではないかと思います。

後半の、礒井先生の講演では、土壌学の観点から、無施肥、不耕起、無除草で管理される自然栽培と慣行栽培との土壌条件の推移、農作物の成長との関係について、附属農場での10年におよぶ継続的な実験結果や文献における知見を紹介しながら講演されました。

本講演会の参加者募集は、早々に定員に達するなど、農業に従事される方や家庭で農作物を栽培される方に加えて、消費者の方々にも関心の高い内容であることが伺えました。聴講された参加者の方々も、興味深くお聞きになられており、講演後の総合討論でも多くの質問が上がりました。



講演会終了後も講師のお2人と参加者の方々のお話しされる様子が印象的でした。農水省において「みどりの食料システム戦略」が策定されるなか、食糧生産における環境負荷低減について考えるよい機会になりました。